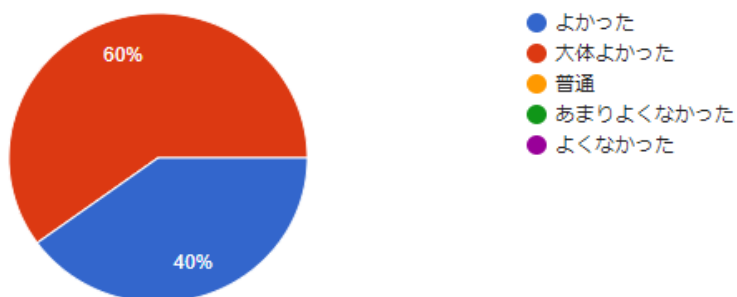


1. スカウト進歩委員会内アンケート調査結果

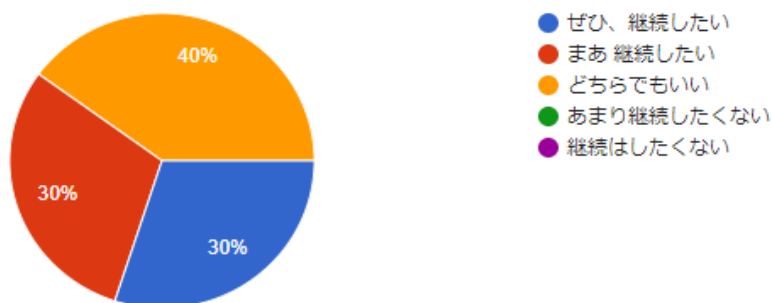
Q1. フロントランナープログラムを終えての感想をご回答ください。

10 件の回答



Q2. フロントランナープログラムは次年度以降継続したほうがいいですか？

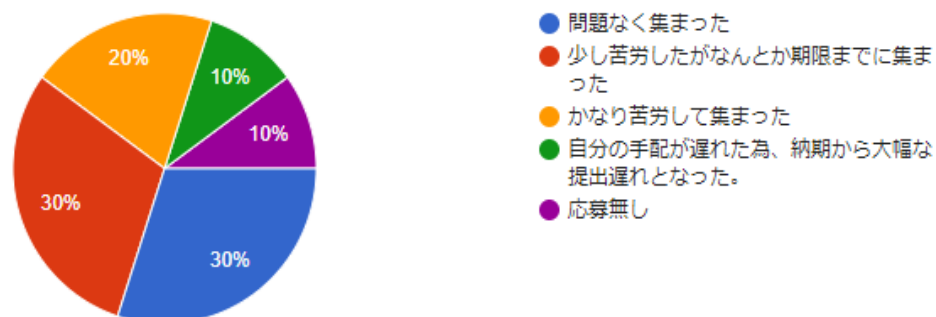
10 件の回答



- ・応募基準の明確化。
- ・重複応募について（BVSで応募したスカウトがCSで違う内容で応募して良いか？）
- ・発表会への参加をある程度強制に出来ないか？（当日参加者はイキイキしていた）
- ・楽しかったで終わらず、本来の目的が達成されているか評価が必要です。
- ・コロナ禍で仕方ないと思いますが、もっと多くの人に発表会を見ていただきたい。
- ・県連役員の来賓が居ないのが寂しい。
- ・発表者への質問について、会場内の人からも聞いてみた方がよいと思いました。
- ・ローバースカウトの起用は立ち上げ当初からいたほうが共有できスムーズと感じた。
- ・キーホルダーは単価が高いので、次年度以降は「缶バッジ」にしますか？（300円程度）
- ・スカウト進歩委員会の担当者を持ち回りに。

Q3. 事前の提出資料はスムーズに集まりましたか？

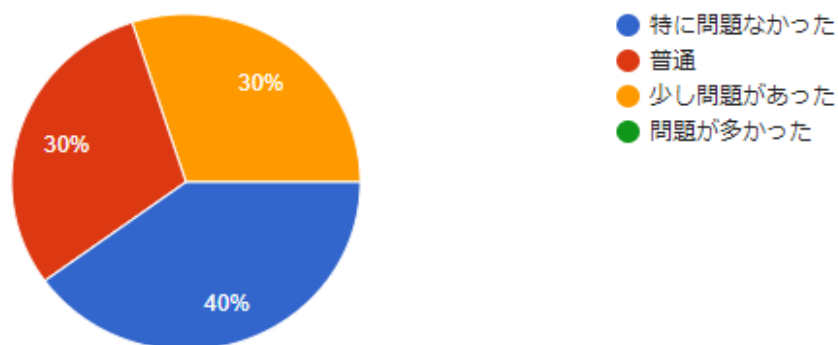
10 件の回答



- ・回収期間にもっと余裕が欲しい。
- ・調査依頼の回数をなるべく少なくした方がよいと思います。
- ・調査時に出席・発表・発表方法などを一括で回答できるようにしたい。
- ・コメント欄の文字数について、地区にてご意見頂きました。
- ・調査①で参加申請を受け付けたら、調査②は申請者へ直接依頼された方が漏れないのではないかと思います。
- ・第1回応募時に「紙面発表フォーマット」を使用する（11月末迄）
第2回目で発表会当日の内容（画像・動画等）を受け付ける。（1月末まで）
- ・期間がタイトのため、1回の調査ですべてが完結できるように次年度は改善を要する、直前は当日急に来れなくなった応募者のみの対応レベルにする。

Q4. 当日の運営についてお答えください

10件の回答



- ・受付の場所が分かりにくかったり富士顕彰の受付と重なり少し混乱。
- ・特にないですが、コロナ禍の関係で発表者の保護者・所属団の方だけの発表会に成ってしまったので、ちょっと残念でした。出来れば、愛知連盟全体として知って頂けるような方法が有れば良いと思いました。
「スカウト愛知」も有りますが その他の方法も有ればトライしたいです。
- ・飛び入り参加スカウトに対応して頂き、感謝申し上げます。
RSの司会も素晴らしかったです。はじめての事業の運営は、大変だったと思います。
本当に有難うございました。改善点は特にありません。
- ・出席者の協力でスムーズに進行できたが、コロナ禍で近づけないため臨機応変に対応できなかった。
- ・音響装置は充実できればした方がいい。（ところどころ聞き取りにくい）
- ・鵜飼委員長から発表者へ記念品を渡す時、マイクで声を拾ってあげた方がよかったと思う。
- ・機材の事前点検の実施（スタンドマイクで苦労していた）。施設の都合で仕方ない点ではあるが、舞台への乗り降りで靴からスリッパへの履き替えがスマートではなかった。改善点ではありませんが、当地区から提出が遅れてしまった発表資料を、担当して頂いたローバースカウトの皆さんに拾い上げて頂き、画像発表につなげて頂いたこと、大変感謝いたします。ありがとうございました。
- ・皆さん持ち場を理解して頂き、スムーズに進行できたのでは、RS3名の力は大きな財産となる。（委員会として大変助かりました）
- ・運営スタッフ（A R C）の増員。

■ 運営を奉仕した R S の評価・改善点

○プログラム当日までの準備に関して

- ・ R S の人数不足。
- ・ 資料の提出期日が守られていない。
- ・ フロントランナーとして発表する基準があいまい。
- ・ 準備期間が短く、必要な資料作成がぎりぎりになってしまった。
- ・ 提出資料が多岐に渡り、まとめるのに時間がかかった。
- ・ 具体的な目的がわからない。
- ・ 全員を紹介したい気持ちはわかるが、次回から全員を発表となると、いくらか厳選しないといけなくなる→するとオーディションのようになり本来の目的を失う可能性がある。
- ・ 司会の人の性質により毎年全く色が変わる可能性がある。
- ・ ボーイスカウト活動との関係性が薄い。
- ・ 小笠原君が動画編集できていなかったら紙面発表できていなかった→ R S の能力にかかっている。

○プログラム当日に関して

- ・ 当日の動きをきちんと掴めておらず、バタバタ感が出てしまった。
- ・ 提出された動画の音量がまちまちだったので、統一させたい。
- ・ リハーサル不足。
- ・ 当日の午前中に詰める要素が多すぎる。
- ・ 形式的すぎたのもっと親しみを持てる工夫が必要。トークショー方式など。
- ・ マイクのオンオフを統一しておく必要あり。
- ・ カンベ係(統率する人)と司会者を分けても良い。
- ・ 発表者の保護者ウケをねらうものになり、スカウトにとって今後モチベーションに繋がるものであったか疑問が残る。
- ・ 発表者の発表時間を正しく把握していない隊がいた。その時でも発表後、司会とのインタビュー形式によるやり取りによって時間を繋げられた◎

■ 運営を行ったプログラム部の評価・改善点

○事前準備に関して

- ・応募から調査②までの行程を少なくする。
- ・地区は応募者の内容を確認して県にエントリーする。（県は拒否できない）
- ・調査①で確認した当日の出席は聞かない、出席するが標準で発表内容のみ確認し素材もこのタイミングで回収する。
- ・期限を守る。

○当日の運営に関して

- ・機材・配置の確認をもっと行う。
- ・県連役員の出席を事前に確認。
- ・リハーサルを音響を使って行う。（マイク・音源）

○全体に関して

- ・個人的な事業になるので委員会内で持ち回りにする。
（今年度担当者はサブに回り補佐をしていく）
- ・R S の起用は事業立ち上げ時点で募集をかけ、共有していく。
（FUSMA2年次や3年次を起用等）